

スウェーデンにおける男性問題への取り組み

—男性ための危機センター、レイプ被害者緊急外来を中心に—

○四国学院大学 大山治彦
佛教大学 大東貢生
関西大学 多賀太
京都産業大学 伊藤公雄

1 目的

本報告の目的は、男性学の視点から、スウェーデンにおける男性問題への取り組みについて、現地調査の結果をもとに、論ずることである。世界的にみると、ジェンダー政策については、20世紀末にはジェンダーの主流化が行われ、21世紀に入った今日では、さらには男性や男児の役割や問題について着目されるようになった。しかしながら、わが国では、男性問題への対応、すなわち、男性に対するジェンダー政策、施策は立ち遅れているように思われる。そこで、先駆的と思われるスウェーデンの取り組みを検討することで、わが国の男性に対するジェンダー政策、施策の向上に資する知見を得たいと考えている。

2 方法

現地調査は、非構造化面接法による面接調査によって行われた。調査日時は、2016年8月20日から8月25日まで、調査場所は、団体、所在地の所在地などで行われた。なお、調査は、日本社会学会の本学会の倫理綱領にもとづく研究指針や、所属大学の倫理規定などに従って行った。

3 結果

(1) 男性センター (Manscentrum、以下、MCS)

ストックホルムにある、NGOによる男性のための心理療法センターで、1988年に設立された。グループ療法など、短期の心理療法を提供していた。MCSの心理療法は、男性加害者の行動変容において、その効果は絶大であるという。しかし、採用されている療法は、心理臨床の分野では非典型的なものであり、わが国での採用については、慎重な検討が求められる。

(2) スウェーデン・男性のための危機センター協会 (Rikskriscentrum、以下、RKC)

男性のための危機センターの全国組織で、1997年に設立された。加盟団体は、30である(2016年12月現在)。RKCは、中間支援の情報センターとして、全国集会や研修会を開催し、交流につとめていた。全国的に見て、資金調達が大きな課題であった。

(3) レイプ被害者緊急外来 (Akutmottagning för våldtagna、以下、AFV)

2015年10月15日より、トランジェンダーを含むすべての性別の被害者に、世界で初めて、門戸を開いた。AFVのサービスは、緊急の医療的なケアが中心であった。AFVでは、性暴力の被害者の援助について経験豊富なスタッフが、365日24時間体制で被害者を受け入っていた。被害者本人は、スタッフについて希望する性別のスタッフを選ぶことも可能であった。

4 考察

いずれの団体、施設も、男性利用者に対し、男らしさの問題を念頭におき、ジェンダーに敏感な視点での援助をしており、成果を上げているといえる。また、ジェンダーやセクシュアリティの分野でも、スウェーデンの対応は、わが国に比べて、良くも悪くも、極めてプラグマティックであった。いずれにせよ、これらの活動には、わが国における、DV問題、レイプ被害者支援について、示唆に富むものであった。

※本報告は、日本学術振興会(JSPS)の科学研究費(科研費、課題番号:26570018、15K01935)、および日本経済研究センター研究奨励金の助成による研究成果の一部である。